



2018.March



今号の内容

国際交流

第7回
中日教師教育
学術研究集会

タイの学校で学んだこと
素敵な学外研修の経験

学園だより

人との関わり
夢見ていた教師
大学生活は宝物
真価が問われるステップへ

**退職に
めたい**

Publish or perish
退職に当たり思うこと
鳴門教育大学の
豊かな自然に包まれて

第7期情報基盤システムの概要について

情報基盤センター
所長よりお知らせ

健康「生活習慣病の発症予防をしましょう!」

こんにちは附属です!!

課外活動News~サークル紹介~

附属中学校「創立70周年キャラクター完成」
附属幼稚園「大学との共同研究の成果を発表」

ソフトテニスサークル・人形劇団ころぼくる
剣道部・手話サークル「ぼびぶべぼ」ほか

学園だより

G A K U E N D A Y O R I

学園だより No.77

CONTENTS

2018.3

私の障がい児教育の原点	学長 山下 一夫	1
学園を築立つ前に		2
大学生活で学んだこと	特別支援教育専攻 島内 隼人	
大学生活は宝物	生活・健康系コース（家庭） 片岡可南子	
人との関わり	現代教育課題総合コース 安原 章人	
真価が問われるステップへ	社会系コース 奥野 甲次	
とても有意義な2年間	自然系コース（理科） 中村 嘉秀	
大学院での生活を振り返って	芸術系コース（音楽） 後藤 正志	
夢見ていた教師	教員養成特別コース 井口健太郎	
退職にあたって		9
鳴門教育大学の豊かな自然に包まれて	臨床心理士養成コース 教授 中津 郁子	
退職に当たり思うこと	特別支援教育専攻 教授 井上とも子	
Publish or perish	自然系教育コース（理科） 教授 村田 守	
先輩からのメッセージ		10
教師1年目を経験して	平成28年度卒業生 三好 藍子	
情報基盤センターよりお知らせ		11
第7期情報基盤システムの概要について	情報基盤センター 所長 伊藤 陽介	
国際交流		12
第7回中日教師教育学術研究集会		
第7回中日教師教育学術研究集会学内準備委員長（国際交流担当副学長）	松岡 隆	
タイの学校で学んだこと	自然系コース（数学） 住田 幸平	
素敵な学外研修の経験	特別聴講生 ^{スクスデート スダラット} SUKSUDEJ Sudarat（タイ）	
こんにちは附属です		16
大学との共同研究の成果を発表	附属幼稚園 園長 佐々木 晃	
附属小学校合唱部トゥインクルコールです♪	附属小学校 教諭 櫻木希実子	
創立70周年キャラクター完成	附属中学校 主幹教諭 岩佐 宣之	
笑顔いっぱいクリスマス会	附属特別支援学校 教諭 尾関 美和	
鳴潮祭を終えて		18
鳴潮祭を終えて	第34回鳴潮祭（大学祭）実行委員会委員長 堀 智仁	
学生会・院生会だより		19
一年間、そしてこれから	学生会長 服部 良介	
振り返りと来年度に向けて	院生会長 山家 泰輔	
課外活動News ～サークル紹介～		20
剣道部	剣道部 上田 真維	
ソフトテニスサークル	ソフトテニスサークル 三野 了汰	
人形劇団ころぼっくる	人形劇団ころぼっくる 板谷 優菜	
手話サークル「ぱぴぷべぽ」	手話サークル「ぱぴぷべぽ」 宮城 優子	
健康手帳「生活習慣病の発症予防をしていきましょう！」		22
図書館だより		23
学生表彰について		24
行事予定 / 編集後記		25

私の障がい児教育の原点



私が大学院に進学した40年ほど前のことです。就学前の子どもと保護者を対象とした相談機関で、週一回、一人50分、4コマ、

子どもの遊戯療法を担当したことがあります。その中のA君は、自閉症と診断されており、母親と別れても平気な様子でプレイルームに入室し、横にいる私を気にかけるそぶりもなく、一人おもちゃの世界に没頭していました。言葉も、当時テレビやラジオのCMで盛んに流されていた「マルシンハンバーグ」を早口で連呼するか、物の名前をときたま言うぐらいです。私はA君に寄り添い、A君の気持ちになって声かけすることに努めました。

そうこうするうちに夏となり、近所のプールでの特別面接となりました。A君は、手洗い場でジョウロに水を入れ、水をまくと、2メートルほど下のプール場にジョウロを投げ捨てます。そこで、私は手洗い場の端を回ってそのジョウロを拾い、再び手洗い場の端を回って、つまり小走りで25メートルほどを行き来し、A君に手渡しました。A君は無表情でそれを受け取ると、同じようにジョウロに水を入れ、まき、投げ捨てました。私も拾いに行き、A君に手渡します。

それが10回以上繰り返され、A君にジョウロを手渡したとき、A君は相変わらず無表情で私の方を見もしないで、しかし小声で「ありがとう」とつぶやいたのです。そして、プール場に入って行き

◆ 鳴門教育大学長 山下一夫

ました。私はただただ驚くとともに感動しました。そして、A君のことが今まで以上に好きになりました。

このことによって、A君が劇的に良くなったというわけではありません。しかし、A君の横にいて、A君の気持ちが前よりも察することができるようになりました。言葉を介して通じ合うことが必ずしも上手くいかないときがあっても、A君の心臓と自分の心臓が重なり合い、A君の喜び、驚き、悲しみ、怒りが、自分のことのように感じられることが多くなったように思います。A君もまた、私といて楽しいと思うことが増えたように思いますし、私の気持ちも少しは察してくれるようになったのでは、ないでしょうか。まさにA君との出会いが、私自身の障がい児教育の原点であり、私の人間観に大きな影響を与えました。

ちなみに、私の指導教員の河合隼雄先生にこのジョウロの一件を報告すると、先生は「何の遊びかわかりますか？ いらないないばあ遊びですよ」と言われました。その後、私は人間の成長を「依存と自立のサイクル」と名付け、カウンセリングや生徒指導における根本的な理論として提唱するようになりましたが、そのきっかけの一つが、このA君とのジョウロのやりとりです。

注：本稿は、鳴門教育大学附属特別支援学校、創立五十周年記念誌（山越明（編著）2016『自立 真実心 共生—杉の子の五十年—』）のなかの拙文に手を加えたものである。

学園を巣立つ前に

大学生活で学んだこと

◆ 特別支援教育専攻 島内隼人

私は鳴門教育大学での4年間の大学生活の中で多くのことを経験し、学びました。鳴門教育大学でしかできない体験や、尊敬できる人々とのかわりを通して、教員を志す者として、人間として成長することができたと思っています。

特別支援教育を専修するなかでは、見学や実習など、実際に特別支援学校の先生方や子どもとかわかることで多くのことを学びました。私は元々子どもと接することが得意ではなく、学部1年生の頃は、子どもたちと遊ぶことすら苦労しました。しかし、先生方や同じ専修の仲間たちの様子を見て学び、少しずつ教員としての振る舞いや、使命感を身につけていきました。特別支援学校の教員には、素早く、正確に子どもの実態を把握する能力が必要であるので、この4年間で学んだ子どもとのかかわり方は、今後の教員人生において、私の基礎となるものであると考えています。

サークル活動では、アカペラ同好会の一員として、4年間活動してきました。最初の一年間は優しい先輩方に囲まれ、ただひたすらに楽しかっただけでしたが、学年が上がるにつれ、自身にかかる責任が大きくなっていき、集団で活動することの難しさを実感しました。集団のなかでの自分の役割をこなそうと試行錯誤し、サークルの同期や後輩にも何度も迷惑をかけましたが、彼らと支え合いながら歌う時間は、私にとって何より楽しい時間でした。後輩たちには、私の数々の失敗から学び、今後もアカペラの楽しさを多くの人と共有

できるような活動を期待しています。

こうして自分の大学生活を振り返ると、この4年間は挑戦と失敗の連続だったように思います。学校での講義、教育実習、学園祭、部・サークル活動、ゼミ活動、ボランティアやアルバイト。私は様々な場面で、挑戦と失敗を繰り返し、多くの人に迷惑をかけ続けてきました。しかし、周囲の人々はその度に、指導や助言を与えて下さり、私を育ててくれました。その時の周囲の人々の姿こそが、私が目指すべき「人を育てる人間」の姿であると思っています。その姿に少しでも近づくことができるよう、徳島を離れた後も、日々精進して参ります。

最後になりますが、鳴門教育大学での4年間を通して、時に優しく、時に厳しく、私を導いてくださった先生方と仲間たちに感謝申し上げます。多くの人々との出会い、その一つ一つが私の宝物です。本当にありがとうございました。



学園を巣立つ前に

大学生活は宝物

あっという間に過ぎたこの4年間で、数え切れないほどの思い出がたくさんできました。鳴門教育大学に来て良かった、本当にそう思います。

一年次合宿は、出会って2日目の家庭科のみならず一日中一緒に過ごしました。遅くまで喋って、たくさん笑って、このメンバーと共に大学生活を送ると思うととても楽しみになったことを覚えています。その合宿から、どんどん楽しい出来事が始まっていきました。体育祭や学園祭、友達と集まってハロウィンやクリスマスパーティーなどのイベント、コースのみんなや部活の友達、先輩後輩と過ごす時間がとても長く、どんどん仲が深まっていきます。学園祭では、家庭科のみんなまで夜遅くに集まって、ダンスの練習を何度もしました。授業のために、友達と朝まで学校で課題と格闘したこともありました。わからないことでいっぱいだった部活は、本当に辛くて大変だったことがたくさんありました。その中で友達、先輩後輩にたくさん支えられました。仲間が増え、経験をたくさん積めて、最高の大学生活が送れ、部活に入って本当に良かったと感じます。全て忘れられない、大切な思い出です。

そして教育実習や教員採用試験。教育実習では、毎日大変で寝れない日もありましたが、一日中子

◆ 生活・健康系コース（家庭） 片岡 可南子

どもたちと過ごせて、子どもたちの前で授業ができて、本当に貴重な毎日でした。頑張って発表しようしたり、予想外の発想をどんどんしたりする子どもたち、一生懸命アドバイスをくださる先生方、そして一緒に授業を考えてその改善をしてくれる仲間がいたから、乗り越えることができました。そして最後は教員採用試験です。これは自分一人でするものではなく、友達と共に頑張るものであるとつくづく実感しました。得意分野を教え合ったり、面接や模擬授業を見あったり、同じ目標に向かって一緒に闘う仲間がいることは、本当に心強かったです。この壁を乗り越えることができるのも、鳴門教育大学の大きな強みだと感じます。

この4年間で、たくさんの仲間や経験、思い出ができました。本当はずっと大学生でいたい、と思うほど楽しくてかけがえのない日々を過ごすことができました。そんな思い出ができたのも、私を支えてくれた家族や先生方、仲間、4年間で出会った人たちのおかげです。本当にありがとうございました。

これからはこの4年間の糧に、教師として頑張っていきたいです。



学園を巣立つ前に

人との関わり

私にとって、鳴門教育大学で過ごした3年間はあっという間でした。ついこの間入学したばかりなのに、もう卒業してしまうのかという感じです。しかし、その3年は、私にとってとても有意義なものでした。

私が鳴門教育大学の大学院へ進学することを決めた理由は、教員免許を取得することができることや、研究にも力を入れられることがありましたが、正直なところ、大学を卒業してすぐに社会に出ることに自信がないというのも、大きな理由の一つでした。このような後ろ向きな気持ちを抱えつつ進学してきた私は、本当にここへ来てよかったのか、思い悩むことがよくありました。高校や大学の友達はすでに就職しているという焦り、親に迷惑をかけているという申し訳なさ、そして、本当に自分は教師になりたいのかという迷いが、私を深く落ち込ませました。

しかし、ここでたくさんの人と関わっていくうちに、その思いは徐々に薄らいでいきました。鳴教には教育とは違うことを学んできた人たちや、教職経験のある人、社会人経験のある人など、様々な経緯をもった人たちが集まっています。そ

◆ 現代教育課題総合コース 安原 章 人

のような人たちの話を聞いていると、教育と別の分野ではこんな考え方があるのか、とか、実際の学校や会社ではそんなことがあるのか、というように、自分の知らなかった領域にふれ、価値観を揺さぶられることが多々ありました。そのたび私は自分の考え方を問い直し、時には人と話し合いながら、自分なりのものの見方・考え方をつくり直していきました。

今、私は鳴教に来てよかったと、胸を張って言うことができます。なぜなら、この3年間を通して、社会に出ていくための自信を身につけることができたからです。私が自信を身につけることができたのは、友人や先輩・後輩、先生方や学外の団体の方々など、たくさんの人と関わる中で、自分なりのものの見方・考え方が形成されてきたからです。卒業したらみんな地方に散り散りになり、もしかしたらもう会えない人もいるかもしれませんが、しかし、その人たちと関わる中で形成されてきた私のものの見方・考え方は、私の中に残り続けます。私は人との関わりの中で得たものを胸に、自信をもって社会へ出ていこうと思います。



学園を築立つ前に

真価が問われるステップへ

◆ 社会系コース 奥野 甲次

6年前の3月、初めて鳴門を、高島を、大学を目にした光景は今でも忘れられない。入学時に抱いた想いを忘れることはない。

6年前の4月に鳴門教育大学に入学した。学部での学びは充実していた。「暗記科目」、「教師がいなくても、教科書で勉強できる科目」と言われる社会科を、授業で変えたいという想いを抱く私には、今後の道標となる内容だった。その学びを教育実習で実践した。最初は上手いかず、理想と現実の狭間に葛藤する日々であったが、実践するごとに、生徒から「今日は何を考えるん?」、「おもしろかった」、「わかった」という反応が出るようになった。

学部4年となり、教員採用試験を受験し、合格をいただいた。しかし、早く現場に出て子どもたちの力を伸ばしたい想いと、果たして今の力量で1年目から子どもたちの可能性を広げることができるのかという想いに葛藤していた。そんな時、友人から大学院に進学すると言われた。その話を聞いた私は大学院で学ぶ選択はありだと考え、大学院を受験した。周囲からは「教採受かっているのに、なぜ進学するの?」と言われたが、私には進学する意味があると考えていた。そこで、「まずは2年後、大学院で学んでよかったと自分自身

で思えるように。そして、現場に出て大学院で学んでよかったと周囲に認められるように」という目標を立て、大学院に進学した。

2年前の4月に鳴門教育大学大学院に入学した。大学院での学びはとても充実していた。講義、研究、ゼミ等が学部と比べてより高い専門性を、より深く学ぶことができた。こうしたカリキュラムでの学びが充実していたことはもちろんではあるが、それ以上に大学院の仲間と学び合えたことが非常に大きかった。教育学部しかない鳴門教育大学出身の私には歴史学部、経済学部、法学部等の他学部出身の仲間との学びはとても新鮮で新たな価値に気づかされる日々であった。授業での学びはもちろん、授業を共同でつくる教育実践フィールド研究や模擬授業、授業外で仲間が行う授業実践の観察・講評、教材研究としての巡検等を仲間と共に行うことで、多くのことを学べた。

大学院での学びはとても充実し、日々が楽しかった。修了間近の今だからこそ言える「まだ大学院で学びたい」と。それほど大学院での仲間との学びは充実していた。充実する学ぶ機会をいただいた大学院の先生、仲間をはじめ多くの方々に感謝し、学んだことを真価が問われる次のステップで実践し、子どもたちの可能性を広げていきたい。



学園を巣立つ前に

とても有意義な2年間

2年間を総括して思うことは、たっぷり時間を使うことができたなということです。なにに時間を使ったのか大きく4つに分けると1つめは、スキルアップです。専門職に特化した大学のカリキュラムによって余計なことを考えず、教師に必要なスキルを確実に身に付けることができました。特化したカリキュラムといっても、決して授業数が多いわけではないので、しっかりスキルを自分のものにできるだけ時間を確保することができ、今振り返ると時間をかけたぶんだけ自分の力になっていると実感することができています。2つめは、教師について考える時間です。周りにはいる人全員が教師を目指しているので、普段から自然と教師についての話になることがあります。目的意識が共通している環境はとてもプラスであり、教師というものに対してたっぷり考えを巡らせることができたことで将来への不安もなくなりました。3つめは、運動です。大学院になると極端に運動する機会が減りがちですが、鳴教の場合は違いました。院生でも歓迎してくれる部活が多く、学部生と同じように運動することができました。体を動かしたい私にとって、たっぷりスポー



◆ 自然系コース（理科） 中村 嘉秀

ツに打ち込めたことはとても幸せなことでした。部活以外でも年2回の院生球技大会はとても楽しく、勝つためにみんなで練習したことや、コースの垣根を越えて交流できたことは、勉強の息抜きという意味でもとてもいい思い出です。4つめは、趣味についてです。私は大学院の期間は学問を深めるのはもちろん見聞を広げる期間でもあると思っています。そのため、さまざまなことに挑戦し、趣味へと昇華することで楽しんで見聞を広げることを大切にしてきました。鳴教という環境は自分の趣味へ使う時間もたっぷり取ることができ、趣味を通して得たことは今後とても役に立つと実感しています。なにより趣味が増えたことが私にとってとてもうれしいことでした。

学問にもスポーツにも時間をたっぷり使うことができる。大学院という社会に出る一歩手前の段階で、このような時間の使い方ができたことはとても贅沢なことだと思います。また、この時間があつたからこそ社会人としていいスタートがきれると感じています。社会人になると多忙だからこそ、改めてこの2年は私にとって有意義だったと感じています。



学園を巣立つ前に

大学院での生活を振り返って

2015年4月、鳴門教育大学院に入学した私は、本誌のバックナンバーである同年3月号の『学園だより』Vol.71を手に取り、心躍らせていました。そこには、音楽コースを修了された先輩の「学園を巣立つ前に」が掲載され、充実した大学院生活の様子が生き生きと綴られていたからに他ならないのです。それから、3年たった今、私は、その先輩のように充実した鳴門教育大学院での生活を送っていただろうかを改めて振り返っております。

今、ふと思い出した入学式後のオリエンテーションでの1コマです。そこで、音楽コース7名の先生方、お一方ずつからお祝いの言葉をいただきました。その中でもある教授がおっしゃった言葉に私を含めた音楽コース新入生は、笑みを浮かべていました。教授はポケットから植物のキャラクター（ピクミン）のフィギアを取り出し、それを操りながら言うのです。「このピクミンは、このようにこっちから（右から）風が吹いて倒されても、こっちから（左から）風が吹いて倒されても、起き上がるのです。皆さんには、このピクミンのように、あちこちから刺激をもらい、それに耐えて、また起き上がるたくましい心を大学院で身につけてください。」とおっしゃったのでした。

この教授のお言葉の意味が今になればよくわかります。大学院に入学してから日々、刺激だらけでした。例えば、対人関係で生じる価値観の違いがそうです。大学院には、様々な年齢、国籍の方が所属しており、色々な価値観をもって生活しています。価値観が違えば、意見がぶつかることや困惑することもあり落ち込むこともあります。しかし、そのぶつかり合いや困惑が刺激になり、自分にとって新たな価値観を生み視野を広げてくれ

◆ 芸術系コース（音楽） 後藤 正志

たと思います。

また、視野を広げてくれたといえば、大学の先生方の講義もそうです。私は、本校の先生方の講義の良さは、わかりやすく、熱意があることであると日ごろから感じています。その熱意に推され、いつのまにか先生のお話を聞き入ってしまうことが多々ありました。きっと、その熱意の源は、共通に学生が好きで、学生の成長を願っているということから生み出されるものではないかと思いません。

さて、この原稿を締め切り直前に書いているように、いつも課題などをギリギリにやってしまう私です。そのため、この大学院でも課題の多さで何度も疲弊しそうになりました。おそらく（いや、絶対）、学校現場へ出ればもっともっと課題が山積みでしょう。多忙になって、周りが見えなくなる時は、多々あることでしょう。しかし、そんな時、鳴門教育大学の先生方のように、子どもたちを想う心を忘れないで、広い視野を持ち教員として現場に立ちたいと思います。

そして今、この文章を書き、読んで改めて思います。私の大学院生活は充実していたのでしょうか。



学園を巣立つ前に

夢見ていた教師

◆ 教員養成特別コース 井口 健太郎

「井口先生。」

今ではこう呼ばれることにあまり違和感を持たなくなりました。教職大学院での最後の年、4月から総合インターンシップで学ばせてもらってもう半年以上経ちました。最初は先生と呼ばれることに申し訳ないという気持ちでいっぱいでした。しかし、始業式から実際に実習生としてではなく職員として接してくれる実習校の先生方や、子どもたちと実際に関わり、一緒に過ごす日々を通して、成長している姿ややりがいを感じる中で、教師としての自覚や責任感が芽生えてきました。そして、模擬授業と違い、生の子どもたちを相手に授業を実践させてもらう際、子どもたちの顔を思い浮かべ、どんな反応をするのかを楽しみながら、子どもたちが「面白い。」と思う授業がしたいと思うようになりました。

面白い授業がしたいと思ったのはこれが初めてではありませんでした。もっと教師としての力をつけたい、自信を持ちたいと思い、この鳴門教育大学に入学してきました。それまでの大学時代では、音楽を学び過ごしていた私にとって、教育の勉強は苦戦だらけでした。特に授業設計については今でも悩まされています。教科書を読み込むこと、指導書の大切さ。学習指導要領などを踏まえたうえで授業を作る。こういった授業力を学び修了できるのは自分にとって本当によかったなと思っています。

また、このことを学んでから現場で授業実践が

できたことも大きな経験です。実際の子どもたちには本当に驚かされます。予想外の反応やその日の気分や体調の変化などで授業の流れは大きく変わります。初めはそれに戸惑いばかりでしたが、今は少しですがそれにも慣れてきているように感じます。そしていつしかその悩まされていた授業設計が大きな楽しみになっています。

この鳴門教育大学での3年間の経験は、これからの教師としての道のりの中で、私に自信と早く教師になりたいという熱意をさらに持たせてくれました。今後出会う子どもたちは、今まで以上に責任をもって成長に関わっていかねばならないと思います。もう夢見ていた教師ではなく、子どもたちのことをどれだけ全力で考え、見守れるか。子どもたちから認められ、「井口先生。」と呼ばれることに自信を持って返事ができるような教師になりたいと思います。





鳴門教育大学の豊かな自然に包まれて

◆ 臨床心理士養成コース 教授 中 津 郁 子

幼児教育に約20年携わった後、本学で12年半勤務させていただきました。大学での仕事は、私にとって戸惑いの多い日々を過ごしましたが、教職員の皆様に温かく見守っていただいたお蔭で何とか勤めることが出来ました。乳幼児と親の支援や臨床面接、研究の他に、心理・教育相談室の運営と来談者の心理面接、大学内では学生の相談、面接などにも関わって来ました。

心が疲れると、大学の内外を散歩していました。校内の四季折々の豊かな自然が癒しとなり、何かの閃きを与えてくれてもいました。特に春の御衣黄と夏の真っ赤なデイゴの花の季節が楽しみでした。校内の自然と教職員の皆様に心より感謝いたします。



退職に当たり思うこと

◆ 特別支援教育専攻 教授 井 上 とも子

鳴門教育大学には平成18年に赴任しました。徳島に来たのは、採用前の面接時が初めて。西も東もわからない徳島県内で、10数年間ではありましたが、私のライフワークとも言える発達上気になるお子さんの教育に携わることができたのは、多くの学校の先生方、教育委員会の方々、関係機関の皆様のおかげと強く思っております。

大学の中では、やはり最後の2年間、「学生なんて

も相談室」の設置、運営に関わられて多くの職員の方々に支えられ、先生方と連携できたことが特に印象的です。研究室に入ってしまうと独立独歩の大学教員生活が一変し、「連携することの大切さ」を学ばせていただきました。

退職に当たり、本学の教職員の多くの方々にいただいたご厚情に深く感謝申し上げます。



Publish or perish

◆ 自然系教育コース（理科）教授 村 田 守

大学教員受難の時代である。国立大学の独法化の頃から、大学教員は、研究業績（論文数）と教育実績（博士授与数と研究機関への奉職数）で評価されるようになった。1991年4月に本学助教授として着任した時の研究業績は、論文28編・学会発表37件・学会賞等受賞1件であったが、2017年12月末には（受理は除く）、著書73冊・論文230編・学会発表169件・学会賞等受賞9件となった。博士指導学生5名の内、大学奉職者は3名である。最初に論文が出版された1982年から2017年までの36年間、毎年論文を公表し続けることができたことに対して、自分で自分を褒めてやりたい。最近はグローバル化の煽りで、

Thomson Reuterのimpact factor付国際学術誌以外は論文として認められない風潮になってきた。ここ10年間に、当該impact factor付国際学術誌に22編の論文が掲載され、受理中のものも2018年には公表されるので、研究者として最後まで生き永らえることができた。

上を見てもキリがないし、下を見てもキリがないが、国民から「税金泥棒」の誹りを受けることもなさそうで、大学教員としての研究と教育の義務を果たせたと思う。これも鳴門教育大学の教職員・院生・学生の皆様のお陰と感謝申し上げますとともに、皆様の今後のご発展を念じます。

先輩からのメッセージ



教師1年目を経験して

◆ 平成28年度卒業生 三好藍子

私は昨年3月に鳴門教育大学を卒業しました。学生時代は学部の学校教育実践コース（学教）に所属し、軽音学部、児童文化、おもちゃ王国プロジェクトなどで活動しながら4年間を過ごしました。現在は、徳島県で小学校教師として3年生約30人を担任し、日々奮闘しています。

そんな私の教師1年目の実際と、学生のみなさんに今、ぜひやってほしいことをお伝えします。

【大変だったこと】

（鳴教の手厚い支援のおかげで）現役合格でき、臨時経験がなかった私は、教師という仕事の大枠は知っていても、具体的な仕事内容は初めて知ったものばかりで、その多さに驚きました。

たとえば、生徒指導や授業準備に加え、

- ・保護者への連絡
- ・家庭訪問や個人懇談、校外学習などの計画
- ・学級会計（教育活動のために買ったものを保護者などに報告します）
- ・公務分掌（私は作文募集担当なので学校全体に募集を呼びかけ、集めた作文を提出します）
- ・成績処理 …… などなど。

始めはこれら多くの仕事をこなすだけで手一杯ですが、子ども達に十分な力を身に付けさせ、無事に次の学年へと送り出さなければならないという責任感もなかなか大きなものでした。

しかし、大変なことばかりに思える教師生活にも、喜びがあります。

【うれしかったこと】

私はとても恵まれていて、周りの先生方が親身に、何でも教えてくださり、助けてくださいます。そのおかげもあり、子どもたちから「授業が楽しかった」「勉強が好きになってきた」という言葉が聞けたり、保護者から「うちの子が学校に楽し

そうに通っています。先生のおかげです。」と言って頂けたりすることがあります。そんなとき、自分のがんばりが無駄でなかったような気がします。

【大学生におすすめすること】

実際に教師になってみて、学生時代にしていたことが役に立っていると感じる瞬間が多々あります。大学生活のなかでぜひやってほしいことをランキングで伝えます。（あくまで私の考えです）

第1位 授業を受ける

当たり前ですが、採用試験対策のみならず、教師としての価値観の形成に役立ったと思っています。なにより、教師になるためには単位が必要です。

第2位 バイトをする

教師は多業種との関わりは少ないです。しかし、子ども達の多くは教師以外の職に就きます。あらゆる職場で必要となる能力を知って、子ども達に身に付けさせていきたいです。それに、教師は副業ができないので他業種に身をおけるのは今のうちです。

第3位 遊ぶ

余暇が充実しているからこそ、仕事も一生懸命できます。たくさん遊んで人の輪を広げたり、趣味を増やしたりしてください。

第4位 ボランティア・読書をする

教職関係でなくてもいいと思います。とにかく人と関わって多くの経験を積み、教養を高めることをおすすめします。人間としての幅を広げると、教師としても魅力的になります。

みなさんの学生・教師生活が実りあるものになることを、お祈りしています。

第7期情報基盤システムの概要について

◆ 情報基盤センター 所長 伊藤 陽介

情報基盤センターでは、情報システムと情報教育に関する教育研究を推進するため各種情報システムの運用管理や利用支援に関わる講習会・相談等に関わる様々な業務を行っています。平成30年2月より第7期情報基盤システム（以下、新システム）が導入されましたので、その概要をお知らせします。

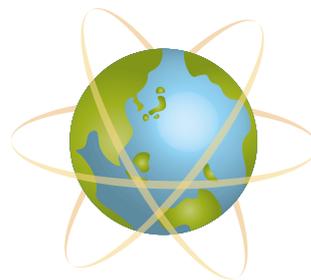
新システムは、ICT利用による教育研究の推進及び運用管理に係る効率化とコスト削減、情報セキュリティ確保等を主な目的として、附属小・中・特別支援学校の児童・生徒、学生、教員、事務職員からなる本学構成員のすべてを利用対象とする包括的な情報環境を提供しています。本学においても著しく情報化が進み、定常的に情報環境が利用できることを前提とした教育研究や各種業務が行なわれています。そのため、人的災害や自然災害などの緊急事態が発生しても情報システムが継続的に稼働できるように、新システムの基幹サーバ群を学外にあるデータセンターに設置するとともに、メール環境等をクラウドサービスを利用して提供しています。従来、学内の停電に伴って認証やメール、Webサーバ等の基幹サーバ群によるサービスを度々停止していましたが、新システムでは停電による影響はなく、長時間のサービス停止はなくなる見込みです。

導入した端末機器のうち学生用はWindows 端末（147台）、Mac 端末（10台）、プリンタ（5台）であり、附属小学校の児童用Windows 端末（デスクトップ型36台、タブレット型150台）、附属中学校の生徒用Windows 端末（ノート型121台）、

附属特別支援学校の生徒用Windows 端末（デスクトップ型7台、タブレット型4台）です。さらに、附属学校園の教員用Windows 端末（143台）、事務職員用Windows 端末（190台）を導入しました。特に、附属学校ではICTを利活用した指導法等に関わる教育研究を強力に支援できる情報環境が整備できました。また、学部と大学院で実施している遠隔教育に必要なサービスを提供するとともに、教育用端末室とマルチメディア教育実習室には、実際に学校教育でよく導入されている教育支援システムも利用できます。

平成30年2月よりMicrosoft社との包括的なソフトウェアライセンス契約も更新しました。本契約には、Office365で提供されている会議システム（Skype for business）やオンライン・ストレージ（OneDrive）等の各種サービスに加えて、個人所有の情報機器にインストールできるMicrosoft Officeのライセンス（卒業や修了後に利用できるライセンス数は1、それ以外は、15）等が含まれていますので、積極的に利用してください。

最後になりましたが、利用支援に関わる要望や導入希望のソフトウェア、情報機器等がありましたら、どうぞお気軽に利用支援室（support@naruto-u.ac.jp）までお知らせください。





第7回中日教師教育学術研究集会

◆ 第7回中日教師教育学術研究集会学内準備委員長（国際交流担当副学長） 松岡 隆

本学と大学間交流協定締結校である北京師範大学との共催による第7回中日教師教育学術研究集会が、2017年12月2日、3日の2日間、北京師範大学内にあるホテル京師大厦において開催されました。日本からは、山下一夫 鳴門教育大学長はじめ、川崎直哉 上越教育大学長、福田光完 兵庫教育大学長ほか7大学から学生も含め28名、中国からは4大学37名の参加者が集まり、集会テーマ「教師教育の実践：モデル、カリキュラム、授業」の下に、国際的視野に立った教師教育の充実・発展について実践に焦点を当てて活発な討論・発表を行い、学術交流を深めました。

集会のプログラムは、午前中に鍾秉林 中国教育学会会長、鳴門教育大学 山下一夫学長および梅津正美副理事・副学長（連名）、北京師範大学 李琼教授による3件の基調講演があり、午後は4会場に分かれて計31件（日本側15件）の研究発表が行われました。中国側の基調講演では、情報基盤社会への急速な変化への対応などこれから重視すべき教育の課題が示されましたが、それらはいずれも日本でも大きな課題とされているものばかりで、世界がグローバルな時代に入っていることを改めて感じさせられました。双方の課題は共通であるものの、基調講演、一般発表ともに、中国側の内容はどちらかというと理論面に重点が置かれ、対照的に日本側は実践例も含めた具体的実

践を重視したものが多く、両国の研究姿勢の違いも感じました。しかし、日本側の実践への関心も寄せられており、理論中心の中国と実践中心の日本の研究が、今後うまく補い合って共同研究として実りあるものになることが期待されます。

2日目の午前、プログラムの一環として北京王府学校訪問が用意されていました。この学校は1996年創立のグローバル人材養成を目的とした私立の超エリート校です。幼・小・中・高からなるこの学校では、教師陣の40%が外国人でアメリカのAPコース制度も取り入れ、卒業生の殆どはアメリカを中心とした海外の有名大学に進学しています。日曜日ということで児童・生徒の様子を見ることができなかったのは残念ですが、教員陣や設備の充実ぶりは十分窺い知ることができました。日本では考えられない学校の在り様を知ることができ貴重な経験となりました。

開会式の前に、北京師範大学側の代表者である周作宇副学長、鄧猛教育学部部長補佐と日本側の3教育大学長が会談し、これまで日本側は本学が中心に開催してきた本研究集会を更に拡大発展させるため、今後は3教育大学が連携して開催することが合意されました。次回は2年後に兵庫教育大学が幹事校となって神戸で開催される予定です。教師教育に係る日中間の教育・研究分野での更なる交流発展を期待します。



集合写真

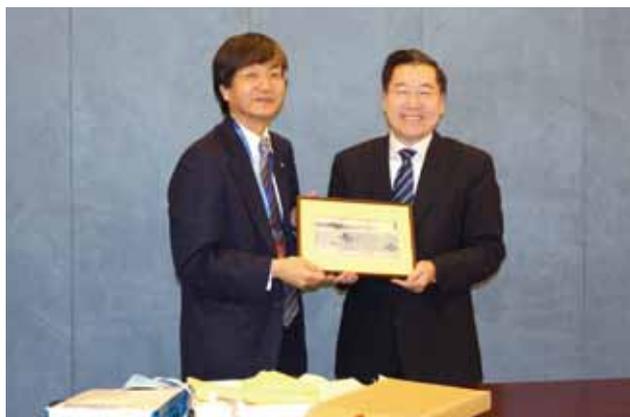
国際交流



会談の様子(中国側:(左から)鄧猛同大教育学部長補佐, 周作宇北京師範大学副学長)



会談の様子(日本側:(左から)福田光完兵庫教育大学学長, 山下一夫鳴門教育大学学長, 川崎直哉上越教育大学学長)



鳴門教育大学からの記念品贈呈



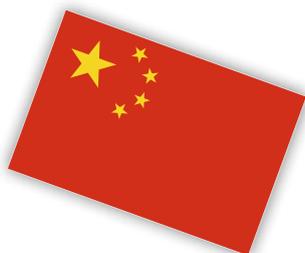
基調講演をする山下学長



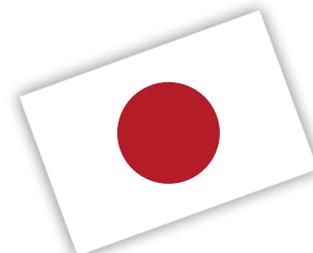
基調講演をする梅津副理事・副学長



分科会の様子



北京王府学校訪問





タイの学校で学んだこと

私は、あるプログラムをきっかけに国際交流に興味を持つようになった。それは国際交流係による「ことばdeともだち」というプログラムだ。

このプログラムでは、国際交流に興味のある人や外国語を学びたい日本人学生や留学生が集まり会話する。話す内容は様々だ。日本に留学することにしたきっかけ、留学生の母国の文化、そして教育など。その国の人から直接聞く話は、私にとって新鮮だった。このプログラムをきっかけに、海外の教育や学校を見たり、授業実践を試してみたりしたいと思った。

そして私はタイのコンケンに向かった。そこで本学の自然系コース（数学）の学生とコンケン大学の学生とともに算数科の授業を行う研修に参加した。

研修2日目、初めて海外の学校で授業を見る機会がやってきた。その授業は小学校の算数科の授業だった。タイ語で行われていたため、児童が何を発言しているのか、先生が何を発問しているのかは分からなかった。しかし、ノートや黒板に書かれた数式を見ると何を学んでいるのか概ね理解することができた。私は思った。国が違い、言語や文化は違っても、算数の授業で学ぶ概念に違いはないのだと。そして、算数・数学の授業で児童生徒に理解させるべき概念は世界共通なのだ。

授業が終わり、号令が行われた。しかし、その様子は日本のそれとは違った。児童は座った状態で、今にも頭が床に着きそうなほど深くと頭を下げていた。この光景を見て私は驚いた。後にその意味が分かった。タイでは教師という職業は尊敬を受ける職業であり、尊敬の念を表していたのだと。この日はタイの学校の習慣や児童の様子を見ることができた



◆ 自然系コース（数学） 住田 幸平

貴重な一日だった。

そして私たちは大学に戻り、実践授業の協議を行った。協議は英語で行われた。互いに母国語は英語でないため、意思疎通を図るのは困難だった。そこで求められたのは、指導の内容や方法をシンプルに伝えることだった。より指導内容の本質を理解しなければならない状況に迫られたのだ。私たちは考えた。

「この一度きりの授業で子どもたちに何を身に付けさせたいのか」、「この授業で最も重点を置かなければならないポイントはどこなのか」と。

日常で使う言語が異なる人と協働で授業をつくる状況では、指導内容の本質を理解し伝えることが重要であると気づかされた。また、本質を捉えるという思考は、算数・数学の授業を構築する中で特に求められていることだとも。

研修を終え、日本に帰国して私は思った。「もっと海外の学校を見たい！」

この研修が数学の授業や日本の学校に対する私の視点を大きく変えた。まだ私には「海外の学校＝タイの学校」に留まっている。他を知れば自己を知れると私は思う。もっと他の国の学校や教育を知ることが、日本の教育のよさや課題を考えられるようになることに繋がるだろう。

最後に、本研修を行うにあたり、終始ご指導いただいた秋田美代先生、早田透先生に深く感謝致します。

さらに、研修を共に行った皆様方に心から御礼申し上げます。

重ねて、本研修を行う機会を与えて下さった皆様に深く感謝致します。





素敵な学外研修の経験

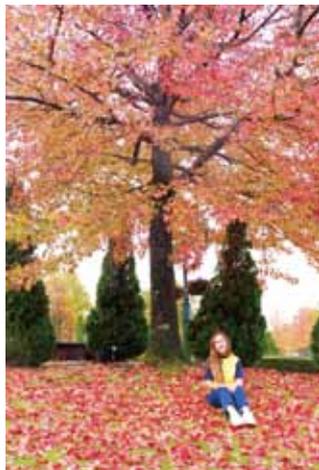
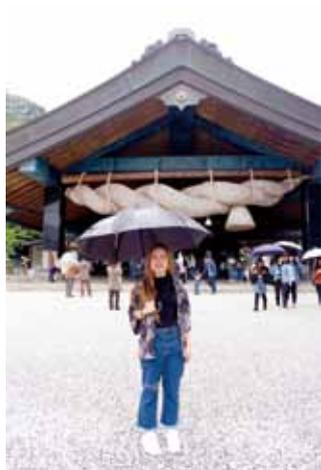
まず始めに、私たち留学生をお世話してくださいました先生方と学生のみなさま、本当にありがとうございました。とても楽しくて、いい経験になりました。

今回の学外研修は10月28日から10月29日まで岡山県、島根県、鳥取県に行きました。

まず、「出雲大社」に行きました。私は日本の文学に興味があるので、出雲大社は一番行きたいところでした。雨が降って時間が少ししかなかったけれど、とても楽しかったです。

その後、「松江フォーゲルパーク」に行きました。いろいろなきれいな鳥と花を見ました。見たことがない鳥もいたので、とても珍しくて写真をたくさんとりました。それから、6時頃遊覧船で島根城のまわりをゆっくりめぐりました。静かな素晴らしい夜景でした。でも、暗くて、お城はあまり見えませんでした（笑）。

翌日29日は、「足立美術館」に行きました。私はテレビやドラマでしか見たことがなかったので、石庭を実際に目の前で見る事ができて、とても楽しかったです。もし雪が降ったら、もっと



◆ 特別聴講生 スクスデート スダーラット SUKSUDEJ Sudarat (タイ)

きれいになるだろうと思いました。

それから、鳥取県にある「とっとり花回廊」に行きました。私にとって花回廊が一番好きのところでした。タイには秋がないので、紅葉を見て感動しました。このようなきれいな紅葉を見たことがなかったので、本当に嬉しかったです。

最後に、岡山県にある「倉敷美観地区」に行きました。2時間の間、散歩していろいろなお店に行き、楽しかったです。また、初めて焼き団子を食べ、美味しかったです。

今回の学外研修は新しい友達ができ、いろいろなところに行けたし、食べたことがない食べ物を食べたし、本当に素敵な経験になりました。その上、日本語をもっと勉強したいという気持ちになりました。言語だけではなく、日本の文化や歴史を学び、日本人についてもっと知りたいと思っています。私は日本に来てまだ3ヶ月しか経っていませんが、優しい皆様に包まれてとても幸せに思っています。今回も、このような素晴らしい機会を与えてくださってどうもありがとうございました！



幼稚園

大学との共同研究の成果を発表

◆ 附属幼稚園 園長 佐々木 晃

「国立教員養成大学・学部，大学院，附属学校の改革に関わる有識者会議」の報告書（平成29年8月29日）の中で、「国立教員養成大学・学部と教育委員会との教員研修の体系化における連携の度合いは必ずしも強くない」ことが指摘されました。

附属幼稚園は，従来よりこのような問題意識に立ち，徳島県教育委員会と協力して徳島県幼児教育推進体制構築事業を進めてきました。

今年度は大学の先生方との共同研究の中で，保育の「かんどころ」の可視化をはかることに挑戦しました。これは保育実践の質の向上や質の高い保育者養成の要となるものです。

集積してきた日々の保育実践の様々な記録や事例を，元園長でもある佐々木宏子名誉教授，幼年発達支援コースの田村隆宏教授，湯地宏樹教授，

塩路晶子准教授，木村直子准教授，そして，教職大学院教員養成特別コースの木下光二教授の研究者チームが学術的な分析・考察を進め，保育の質の可視化をはかる方略を提案しました。山下一夫学長の挨拶をいただいた全体会に続き分科会，講演会を行いました。新幼稚園教育要領，新保育所保育指針，新幼保連携型認定こども園教育・保育要領の試行を来年度に控えた，平成29年度幼児教育研究会は県内外から707人の参加者を得て成功裡に終了しました。



小学校

附属小学校合唱部トゥインクルコールです♪

◆ 附属小学校 教諭 櫻木 希実子

附属小学校合唱部トゥインクルコールには，3年生から6年生の部員56名が所属し，そのうち3・4年生の部員が全体の2／3以上を占めています。

合唱部では，異学年での交流を大切に活動し，高学年がリーダーとなった異学年のペアやグループでの練習を積極的に取り入れています。上学年は，手拍子やキーボードで拍や旋律を示しいっしょに歌うなど，下学年を導くために思考し，主体的に活動しています。また，下学年は，目標とする上学年の歌声を身近に聴きながら，安心して歌うことができ，自然と歌声も上学年の響きに近づいています。そして，下学年が上学年になった際には，自分たちが先輩にしてもらったように，ていねいに後輩たちの世話や指導をしています。このような異学年のつながりが，附属小学校合唱部のよき伝統となりつつあります。

夏休みに行われたNHK全国音楽コンクール徳島

大会では金賞を受賞し，四国大会に出場することができました。また，校内で行ったクリスマスコンサートでは，歌とダンスのパフォーマンスで，満足のいく表現ができました。

毎日の合唱の練習は大変ですが，響きが広がった瞬間には，温かくとても心地よい思いがします。そんな感動や喜びが，子どもたちの自信となり，次への原動力となっているように思います。努力をこつこつ積み重ね，自信をもって前向きに進んでいくことを，子どもたちのこれからの生き方にもつなげていってほしいと願っています。



中 学 校

創立70周年キャラクター完成

◆ 附属中学校 主幹教諭 岩 佐 宣 之

附属中学校では、創立70周年を記念してイメージキャラクターをつくりました。キャラクターデザインは、Art部員が担当し、20点ほどの候補の中から全校生徒による投票を行い、3年生の井上陽香さんのデザインに決定しました。このキャラクターは、オカメインコをモチーフとしており、賢いインコが昔風の制帽をかぶり、手には帳面を持ち「時を重ねて 未来へ羽ばたく」附中生のイメージを表現しています。愛称は、応募のあったものから2年生の村松優月さんの考えた「フチュッピー」に決定しました。

このキャラクターをクリアファイルの作成や文化祭・体育祭などの学校行事・ホームページや学校案内のパンフレットなどに活用して、附属中学校のイメージとなるように、様々なところで用いたいと考えています。そして、生徒、保護者、卒業生の皆さんをはじめ、広く一般の皆さんにも愛されるようにしていきたいと思います。

70th anniversary
祝 創立70周年
一時を重ねて 未来へ羽ばたくー



フチュッピー

特別支援学校

笑顔いっぱい クリスマス会

◆ 附属特別支援学校 教諭 尾 関 美 和

「いっぼんろうそく ツリーにつけて♪～」とかわいい手遊びで、クリスマス会が始まりました。小学部では、毎年全員でクリスマス会を行っています。

今年は、各学級の歌やダンスの発表の他、5・6年生が準備したプレゼント探しゲームを行いました。いくつもの箱の中にたった1つ、手作りの松ぼっくりツリーが入っています。2人一組で、かわいい模様のついた手作りの箱を持ち上げます。なかなか見つからないチームもあり、「あっちの箱!」「となりの箱!」と声援が送られました。そして、見つけたときは大喜びでした。

箱を2人で一緒に持ち上げるという何気ない動作ですが、箱をしっかりと持つ力の調整や2人で一緒に持ち上げるタイミングなど、自立活動をは

じめさまざまな学習で培った力が発揮されます。

いろいろな場面での学びがあり、子どもたちの成長が育まれています。

そして最後は、サンタクロースとトナカイの登場です。今年も子どもたちの笑顔いっぱいのクリスマス会となりました。



鳴潮祭を終えて

鳴潮祭を終えて

◆ 第34回鳴潮祭（大学祭）実行委員会 委員長 堀 智 仁

皆さんにとって今年の鳴潮祭はどんな学祭になりましたか。学祭の裏側というのは、想像以上に大変なものでした。スポンサー回り、パンフレットの作成、マスコットキャラクターの応募、企画の思案、模擬店準備など前途多難でしたが、実行委員13人の協力と学部1,2年生と学校の方々の協力があったおかげで多少のトラブルはありましたが、無事本番を迎えることができました。学祭期間中多くの笑顔が見られ、頑張った良かったと実行委員全体で成功を実感することができました。

また消費者教育に着目し、新しく取り入れたエ

コバックの配布と被災地の募金には、本学の学生を始め一般来場者の方々など多くの方々に協力していただき実行委員一同感謝をしております。

最後になりましたが、第34回鳴潮祭を開催するにあたって協力していただいたスポンサーの方々や地域の皆さん、マスコットキャラクターを書いてくれた小学校の皆さん、そしてなにより苦楽を共に過ごした12人の実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。今年の第35回鳴潮祭が昨年よりも盛り上がることを願っています。

(学校教育学部 算数科教育コース 2年)



一年間、そしてこれから

私が学生会長の任を務めさせていただいて、早1年が過ぎようとしています。学生会執行部には今年度も多くの一年生が入り、安定感のある三年生、しっかり者の二年生、パワフルな一年生といったメンバーで楽しく活動を行うことができました。学生会執行部のメンバー、そして学生の皆様からのたくさんのご協力や支えをいただけたからこそ、本年度の学生会の活動があったと思います。本当にありがとうございました。

今年度は、今まで行ってきた活動を再検討するとともに、伸長させていく一年でした。部活動紹介や、オープンキャンパスで配られる鳴門教育大学のガイドブック、イルミネーションやココアデー、フリーマーケットなど改めて活動を見つめなおし多くの学生の皆さんに楽しんでいただけるように、また学生生活をサポートできるように取り組んできました。

今年度、学生会執行部として残す行事は卒業・

◆ 学生会長 服部良介

修了記念パーティーのみとなりました。お世話になった先輩方を気持ちよく送り出すことができるように、院生会の方々と協力しながら準備できたかなと思っております。

最後に、これからも来年再来年と学生会は続いていきます。これからの学生会の活動にもどうぞご期待ください。そして鳴門教育大生みんなでこの学校を盛り上げていきましょう。1年間ありがとうございました。



振り返りと来年度に向けて

私が大学院に入学し、院生会長を務めさせていただいて早くも一年が経とうとしています。後期も様々な行事があり、その都度多くの方々に協力していただきました。ありがとうございました。

11月にはリレーマラソンがあり、院生会の役員の方々を含め、たくさんの方にボランティアとして参加していただきました。寒い中ではありましたが、みなさんの協力もあって、ランナーの方にも快適に走っていただけたと思います。

翌月には院生会主催のソフトバレー大会がありました。私は参加できませんでしたが、楽しかったという声を多数聞いております。運営していただいた役員の方々のおかげで、この大会も成功したと感じています。

思い返せば四月から院生会として多くの行事、イベントを行ってきました。私が会長として頼りない部分も多々ありましたが、なんとか形になったのも、院生会の役員の方々をはじめ、多くの方の手助けがあつてのことだと強く感じております。

◆ 院生会長 山家泰輔

まだ卒業・修了記念パーティーは残っていますが、ここまで協力してくださって本当にありがとうございました。

来年度になりますと、また新しい院生会が発足します。今年度見つけた課題を伝え、良かった点は継続してもらい、院生会がよりよい組織となるように引き継ぎをしたいと考えています。来年度も院生会をどうぞよろしくお願ひします。



課外活動 News サークル紹介

剣道部

◆ 剣道部 上田 真 維

私たち剣道部は、毎週火曜日、木曜日、土曜日に稽古をしています。部員は多くありませんが、顧問の先生やコーチの先生、大学院の先輩方にご指導いただきながら、時には厳しく、時には楽しく稽古に励んでいます。部員数が多くないため、とてもアットホームな雰囲気、個人の目標に合わせた稽古をすることができます。経験者の多い部活ですが、大学から剣道を始めた部員もいます。私も大学から剣道を始めましたが、先輩方が優しく丁寧に教えてくださるので、楽しく稽古に参加することができます。なので、経験者はもち

ろん、剣道をしたことがない人も大歓迎です。興味のある方はぜひ体育館2階の剣道場に見学に来てみてください！



ソフトテニスサークル

◆ ソフトテニスサークル 三 野 了 汰

初めまして！去年の10月にソフトテニスサークルを設立しました！

私たちは今まで硬式テニス部しかなくソフトテニスをしている部やサークルがなかったので、ソフトテニスに興味がある、またはやってみたいという人たちを集めて結成しました。

人数は新2年生が10人弱と少ないですが全員和気あいあいと仲良く活動しています。毎週月曜日（15：00～17：00）と水曜日（13：00～15：00）にテニスコートで練習しています。練習内容としては、ほとんどが初心者なので基礎的な練習を中心として行っています。ですが、練習の最後には試合形式の練習も行っておりとても楽しい練習となっています。去年は創設して間もなかったので大会に出場することはありませんでしたが、今年度からは大会にも積極的に参加していきたいと思います。さきほども述べたように部員のほとんどが初心者なので、経験者はもちろん初心者も大歓迎です。私たちと一緒に鳴門教育大学のソフトテニスサークルを盛り上げていきましょう！



<学校教育学部 算数科教育コース 1年>

人形劇団ころぼっくる

◆ 人形劇団ころぼっくる 板谷優菜

人形劇団ころぼっくるは、週に2回ほど練習を行っています。七夕やクリスマスなどのイベントを中心に、児童図書館や幼稚園、支援施設などに赴き公演をします。人形や小道具、台本はすべて手作り！先輩から受け継いだものを手直ししたり、新しく増やしたりしながら楽しく活動をしています。現在は団員が4人ととても少なく、ひとつ公演を行うだけでもいっぱいいっぱいです。でも、力を合わせて素敵な劇になるよう練習を重ねています。人形を扱う、人前で演技する自信がない方も、大丈夫。わたしたちも、人形劇を行うのが初めての人ばかりです。小道具や人形を作ってみたい！という方も大歓迎です。



また、ころぼっくるは毎週金曜日に北島小学校にて絵本の読み聞かせを行うボランティア「はなみずき」にも参加しています。自分の読みきかせを子どもたちが喜んでくれるとうれしいですし、読みきかせからたくさんのお話も学べます。一つでも気になったことがある人は、ぜひ見学だけでも来てくださいね！かわいい人形たちとお待ちしております。



手話サークル「ぱびぷべぽ」

◆ 手話サークル「ぱびぷべぽ」 宮城優子

手話サークル「ぱびぷべぽ」は手話技術の習得、向上を図るとともに、他大学の手話サークル及び聾者の方々等と幅広く交流を図ることを目的に活動しています。普段の活動は、手話の学習会が中心で、みんなで楽しく手話を学んでいます。

また、県内のさまざまなボランティアに参加しています。そのボランティアのなかで手話コーラスを披露したり、イベントの補助を行っています。さまざまな方と交流を通して、サークルへの充実感をとても感じています。

今後も手話技術の向上を図るとともに多くの

人々と交流を深めていくことができるボランティア活動を行っています。



健康手帳

生活習慣病の発症予防をしていきましょう!

◆ 特別支援教育専攻・心身健康センター 伊藤弘道



皆さん、こんにちは！今回は生活習慣病の発症予防について考えてみたいと思います。生活習慣病というのは、生活習慣がその発症や進行に深く関係している病気の総称です。具体的な病気としては、がん、糖尿病、脂質異常症、高血圧、脳卒中、心筋梗塞など様々なものがあります。確かにまだ若い皆さんに何らかの病気が発症する可能性は高くないですが、何十年も先を見据えた場合には、その発症に現在からの生活習慣が大きな影響を与えますので、規則正しく節度のある生活をしていくことが重要です。

一般的に、病気の発症には遺伝要因（個人毎のある病気に対するかかりやすさ）や環境要因（有害物質、病原体、生活習慣など）が関係しています。それぞれどの程度関係しているかは病気の種類により様々です。例えば、従来健康な人が偶然転倒したことによる外傷に関しては、基本的には遺伝要因は関係なく、ほぼ100%環境要因によるものと考えられますし、ダウン症候群であれば母親の高齢という発症のリスク要因はあるものの、本人にとってみれば100%遺伝要因によるもの(21番染色体が通常2本のところ、3本あるために発症した)と考えられます。では生活習慣病はどうでしょうか？一般的に、生活習慣病は遺伝要因のみとか環境要因のみに起因して発症するということはなく、どちらの要因もそれぞれ絡んで発症しています。遺伝要因(多因子遺伝)に関しては我々の力ではどうすることもできませんが、環境要因(生活習慣)に関しては努力次第で改善が可能で、

望ましい生活態度をすることにより生活習慣病発症の予防(発症確率を減らすこと)ができるのです。

望ましい生活態度とは具体的には何でしょうか？例えば食事面では1日3食規則正しく食べる、間食を控えて食べ過ぎないようにする、塩分を控えめにして野菜を多くとるなどがありますし、運動面では適度な運動習慣をもつこと、1日1万歩以上歩くことなどがあります。それらを通じて肥満を予防すること、現在すでに肥満であればダイエットをすることなどが重要です。また、タバコを吸わないこと、過度な飲酒をしないこと、規則正しい十分な睡眠をとること、なるべくストレスがかからないようになんでも無理をしすぎないことなどがあげられます。

私個人も運動習慣があまりありませんので、子供との遊びなどを通してなるべく運動していこうと思っています。今からでも遅くありませんので、生活習慣があまりよくないなと思っている人は、共に生活習慣改善に取り組んでいこうじゃありませんか！



図書館だより

図書館では、学び、考え、挑戦するみなさんをサポートするため、利用環境の整備や各種サービスの提供を行っています。今回は、提供しているサービスから一部をご紹介します。

①ラーニング・コモンズ室

模擬授業エリア及びグループ学修エリアの2つのエリアからなるラーニング・コモンズ室を設置しています。いずれのエリアにも電子黒板、プロジェクター等があり、グループ学修、模擬授業等に利用できるようになっています。模擬授業エリアの利用には図書館カウンターでの申込が必要です。予約は1週間前から受け付けています。

②徳島県立図書館資料の取寄せ

徳島県立図書館の資料を無料で取り寄せできます。事前に登録が必要ですので平日17時までに図書館カウンターで手続きをしてください。ぜひ徳島県立図書館の豊富な資料をご活用ください。

③データベース等

図書館ウェブページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>) で和洋電子ジャーナル、新聞記事、電子書籍などの検索・閲覧ができます。レポート、卒論・修論、日々の学習にご利用ください。

④マイライブラリ

学内の方に発行されているユーザーID（学籍番号or職員番号）とパスワードを使ってログインすると、オンライン（インターネット上）で図書館に関する各種の利用状況確認や操作ができます。

- 貸出中図書の予約
- 現在借りている本の情報や返却期限の確認
- 貸出期間の延長（予約者がいない場合に1回だけ可能です。）
- 他大学からの論文コピーや図書の取寄せ依頼
ご利用は、図書館ウェブページの「マイライブラリ」バナーをクリックしてください。

⑤本の交換コーナー「よみがえる」

図書館エントランスホールに図書館の利用者が自由に本を交換できるコーナー



「よみがえる」を設置しています。部屋

が本であふれかえったとき、卒業前に引っ越し荷物を減らしたいとき、本を捨てずに「よみがえる」に持って来てください。

⑥卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証（運転免許証、保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行します。

◎非来館での利用

利用者から申込みのあった図書について郵送等により貸出を行っています。なお、送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページの「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。

(TEL 088-687-6156)

* 来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のとおりです。

貸出冊数	貸出期間
8冊以内	1か月以内

※卒業・修了生は雑誌の貸出はできません。

各種サービスについて不明な点があれば図書館カウンターでお尋ねください。

学生表彰について

本学には、課外活動等において、優秀な成績を修め、かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

平成29年度における表彰が決定した方々は、次の皆さんです。

氏名(団体名)	所属(学年)		表彰事由	申出者
中川 沙弥	大学院	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(保健体育)1年	第36回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 女子個人戦 準優勝	木原 資裕
宇田 翔	学部	中学校教育専修 技術科教育コース 2年	平成29年度(通算74回)秋季四国六大学野球 I部リーグ戦 ベストナイン 三塁手部門受賞	伊藤 直之
児玉 大和	学部	小学校教育専修 技術科教育コース 2年	平成29年度(通算74回)秋季四国六大学野球 I部リーグ戦 ベストナイン 遊撃手部門受賞	伊藤 直之
上野 瑞穂	学部	中学校教育専修 社会科教育コース 2年	第40回中国・四国学生陸上競技選手権大会 女子4×100mR 第6位	綿引 勝美
橋本 理沙	学部	中学校教育専修 社会科教育コース 4年	第40回中国・四国学生陸上競技選手権大会 女子4×100mR 第6位	綿引 勝美
岡崎 愛由	学部	小学校教育専修 保健体育科教育コース 4年	第40回中国・四国学生陸上競技選手権大会 女子4×100mR 第6位	綿引 勝美
伊藤真由美	学部	中学校教育専修 保健体育科教育コース 3年	第40回中国・四国学生陸上競技選手権大会 女子4×100mR 第6位	綿引 勝美
赤木 秀明	学部	中学校教育専修 美術科教育コース 2年	第29回しんわ美術展 銅賞	鈴木 久人
田岡 希望	学部	中学校教育専修 国語科教育コース 3年	大学内外での国際交流活動 (国際交流委員会の推薦)	田中 大輝



行事予定

平成30年度前期

行事等	備考
4月1日(日)～4月3日(火)	4月19日(木)「履修登録」締切 ※変更期間： 4月20日(金)～4月26日(木)
4月4日(水)	
4月4日(水)～4月5日(木)	
4月5日(木)～4月6日(金)	
4月9日(月)	
6月12日(火)～6月13日(水)	
7月31日(火)～8月6日(月)	
8月1日(水)～9月9日(日)	
8月7日(火)～8月19日(日)	
8月23日(木)～8月30日(木)	
9月3日(月)～9月14日(金)	
9月3日(月)～9月14日(金)	
9月3日(月)～9月28日(金)	
8月24日(金)～9月28日(金)のうち4週間	
9月3日(月)～9月14日(金)	
8月24日(金)～9月28日(金)のうち2週間	
9月5日(水)	
9月10日(月)	
9月11日(火)、9月12日(水)のうち1日	
9月19日(水)～9月25日(火)のうち1日	
9月10日(月)～9月30日(日)	
9月25日(火)～9月26日(水)	

就職支援行事予定 (平成30年)

年月日(曜日)	行事名等	時限	場所	内容(予定)	講師等
4月	6日(金) 教員採用試験対策説明会(学内)	3	B101	教員志望学生への指導・助言	本学教員(森)
	6日(金) 教探対策ガイダンス(実践編①)	4	B101	(講) 集団面接・模擬授業・個人面接 (筆) これまでの教育と教育改革、各種答中等 I	本学教員(森)
	11日(水) 教探対策ガイダンス(実践編②)	4	B201	(筆) 各種答中等 II, 学習指導要領	本学教員(森)
	12日(木)	4	B201		
	18日(水) 教探対策ガイダンス(実践編③)	4	B201	(筆) 特別活動、健康・安全教育、食育、生徒指導	本学教員(森)
	19日(木)	4	B201		
	21日(土) 教員採用模擬試験③		B101	受験希望者(3回目)【有料】	協同出版株式会社
	25日(水) 教探対策ガイダンス(実践編④)	4	B201	(筆) 教育法規	本学教員(森)
	26日(木)	4	B201		
	4月中旬～5月下旬	教員採用試験説明会(教員委員会)			教員採用試験について
4月中旬～7月	英語実技講習			英語実技	本学教員(教職キャリア支援センター)
5月	9日(水) 教探対策ガイダンス(実践編⑤)	4	B201	(筆) 指導案と学習指導、学習評価、学習方法、カリキュラム等	本学教員(森)
	10日(木)	4	B201		
	16日(水) 教探対策ガイダンス(実践編⑥)	4	B201	(筆) 道德教育、人権教育、特別支援教育	本学教員(森)
	17日(木)	4	B201		
	19日(土) 教探実技ガイダンス(集団②)		B201他	模擬集団討論 (2回目)	本学教員
	23日(水) 教探対策ガイダンス(実践編⑦)	4	B201	(筆) 総合的な学習、環境教育、情報教育、キャリア教育	本学教員(森)
	24日(木)	4	B201		
	30日(水) 教探対策ガイダンス(実践編⑧)	4	B201	(筆) 教育原理・教育心理・教育史、一般教養	本学教員(森)
31日(木)	4	B201			
5月～6月	教探実技ガイダンス(音楽)		D103	音楽実技(弾き歌い)	本学教員(教職キャリア支援センター)
5月～6月	保育士模試			受験希望者(有料)	
6月	6日(水) 教探対策ガイダンス(実践編⑨)	4	B201	(筆) 教育時事、一般時事、一般教養	本学教員(森)
	7日(木)	4	B201		
	13日(水) 教探対策ガイダンス(実践編⑩)	4	B201	(筆) 適性検査(YG性格検査、内田クレベリン検査)	本学教員(森)
	14日(木)	4	B201	(講) 一次審査・二次審査の準備と今後の対策	
	16日(土) 教探実技ガイダンス(個人②)		B101他	模擬授業・個人面接(2回目)	本学教員
	20日(水) 教探対策ガイダンス(直前編①)	4	B201 就セミナー室 等	徳島県教員採用試験対策、兵庫県教員採用試験対策	本学教員(森・岩佐)
	21日(木) 教探対策ガイダンス(直前編②)	4		神戸市教員採用試験対策、大阪府・市教員採用試験対策	
	27日(水) 教探対策ガイダンス(直前編③)	4		愛媛県教員採用試験対策、その他自治体未定	
28日(木) 教探対策ガイダンス(直前編④)	4				
7月上旬	教探実技ガイダンス(美術)			図画実技(鉛筆素描)	本学教員(教職キャリア支援センター)
7月上旬～下旬	教探実技ガイダンス(体育)		体育館 プール	体育実技(ボール・器械運動、水泳)	本学教員(教職キャリア支援センター)
7月下旬～9月上旬	教探二次対策ガイダンス			個人面接、模擬授業、場面指導、集団討論、集団面接等	本学教員

編集後記

退職される先生方、大学の発展にご尽力いただき、誠にありがとうございました。先生方の益々のご健勝を祈念いたします。また学業・スポーツ等に励み、卒業・修了を迎えた学生の皆さん、おめでとうございます。皆さんが、鳴門教育大学で学び養ったことが、この学園だよりからも伝わってきます。これからの長い人生において、いろいろな問題にぶつかることもあるかもしれませんが、鳴門教育大学で学んだことを誇りにし、自分の思う道を進んでください。今後のさらなる飛躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、ご投稿いただきましたすべての方々へ心より感謝し、御礼申し上げます。

